

事業報告書

令和2年度

社会福祉法人 緑風会

特別養護老人ホーム 緑風館

緑風デイサービスセンター

小規模多機能「みどりの家」

居宅介護支援事業所 緑風館

緑風在宅介護支援センター

《 目 次 》

I	法 人 の 概 要	1~3P
II	介 護 老 人 福 祉 施 設	4~26
III	短 期 入 所 生 活 介 護 事 業	27~28
IV	通 所 介 護 事 業	29~35
V	小 規 模 多 機 能 型 居 宅 介 護 事 業	36~40
VI	居 宅 介 護 支 援 事 業	41~42
VII	在 宅 介 護 支 援 セ ン タ ー	43~44

I 法人の概要

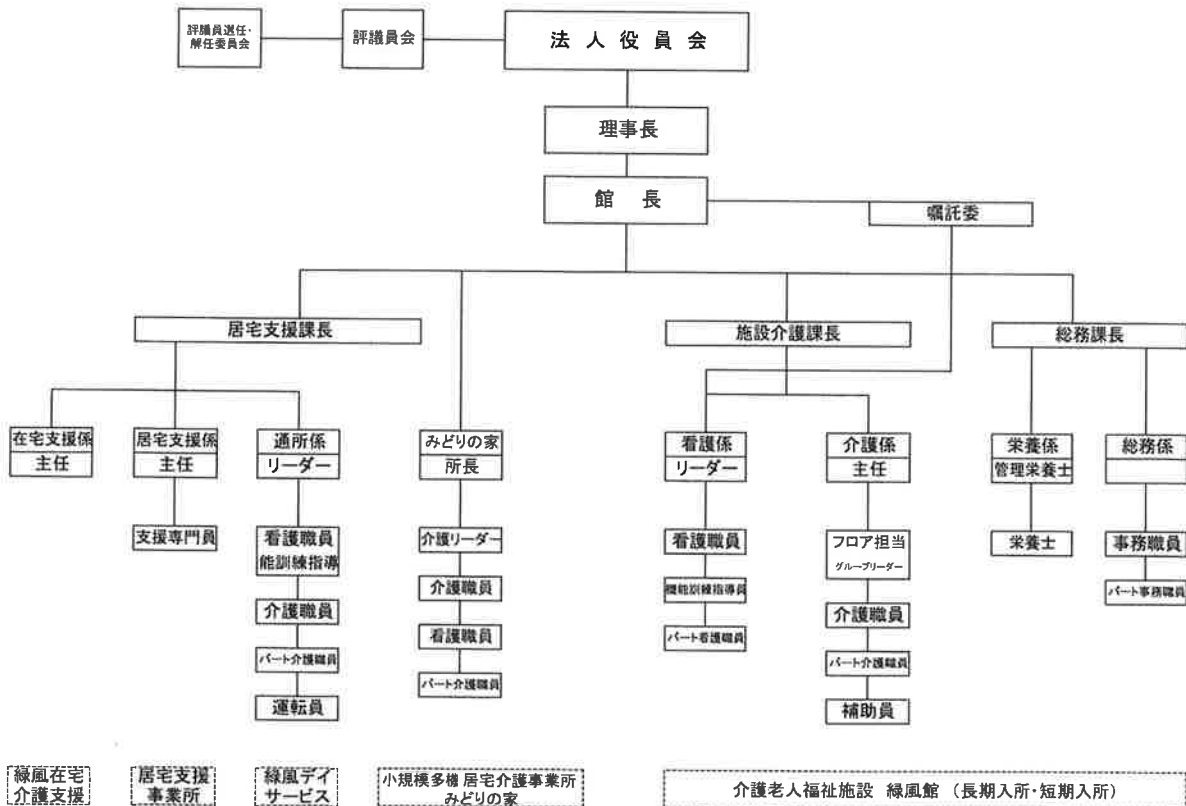
1 名称及び所在地

- [1] 名 称 社会福祉法人 緑風会
- [2] 所 在 地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- [3] 法 人 認 可 平成6年2月7日

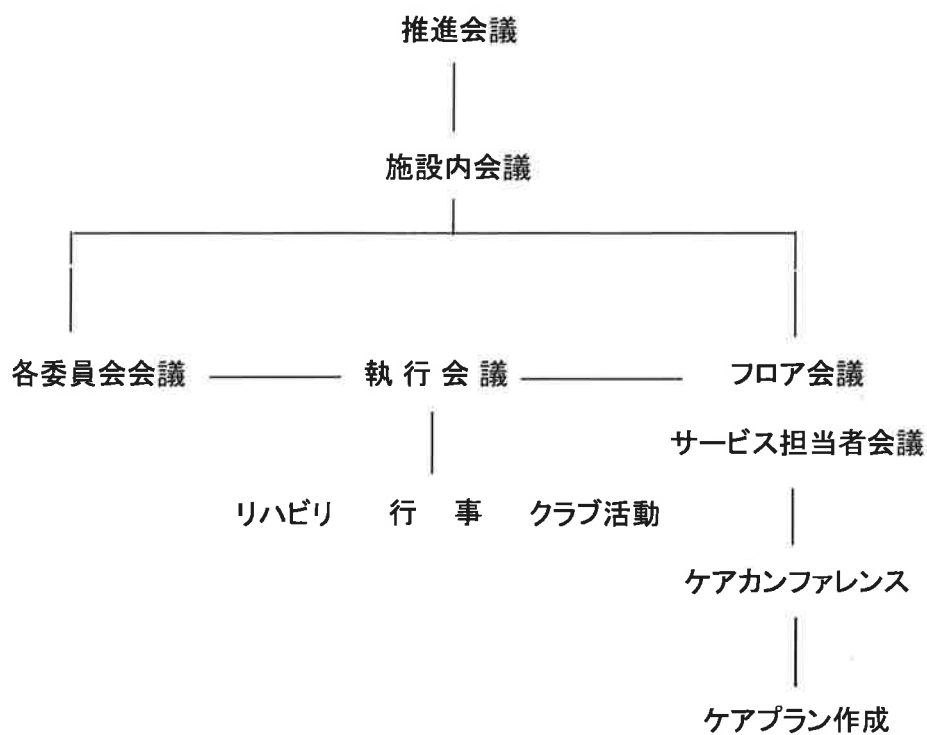
2 法人の組織

令和3年3月31日現在

緑 風 会 組 織 表



3 業務の運営体制



4 職員の勤務体制

事務職員	日勤	A M 9:00 ~ P M 6:00
ケアワーカー	早出	A M 7:00 ~ P M 4:00
	日勤	A M 10:00 ~ P M 7:00
	夜勤	P M 5:30 ~ A M 10:30
看護職員	日勤	A M 9:00 ~ P M 6:00

5 職員配置

〔1〕事業別職員配置

(令和3年3月31日現在)

区 分	介護老人福祉施設 特別養護老人ホーム 緑風館		通所介護 緑風デイサービス		居宅介護支援緑 風館		小規模 みどりの家		緑風在宅介護支 援センター		合 計		
	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	合 計 人 数
施設長	1										1	0	1
管理者							1				1	0	1
嘱託 医師		1 (0.1)									0	1 (0.1)	1
事務 職員	2	1 (0.6)									2	1 (0.6)	3
相談員	1		1						1		3	0	3
介護支 援専門 員	1				2	1 (0.8)					3	1 (0.8)	4
ケアワ ーカー	17	16 (8.9)	1	5 (4.5)			2	13 (8.2)			20	34 (21.6)	54.0
うち介護福祉士 常勤換算	14	0.7	1	1			1	2.9			16	4.6	20.6
看護 職員	2	5 (2.9)	2	1 (0.5)			1				5	6 (3.4)	11
機能訓 練 指導員	1										1	0	1
栄養士	1										1	0	1
その他		5 (2.5)									0	5 (2.5)	5
合計	26	28 (15.0)	4	6 (5.0)	2	1 (0.8)	4	13 (8.2)	1	0	37	48 (29.0)	85

II 介護老人福祉施設

1 施設の概要

- 〔1〕名 称 特別養護老人ホーム 緑風館
- 〔2〕所 在 地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- 〔3〕開 設 平成6年6月20日
- 〔4〕設 置 運 営 社会福祉法人 緑風会
- 〔5〕定 員 60名
- 〔6〕土 地・建 物
- | | |
|-------|----------------------|
| 土地面積 | 2,742.36㎡ |
| 建物構造 | 鉄筋コンクリート造り 3階建(一部4階) |
| 建物延面積 | 3,020.41㎡ |

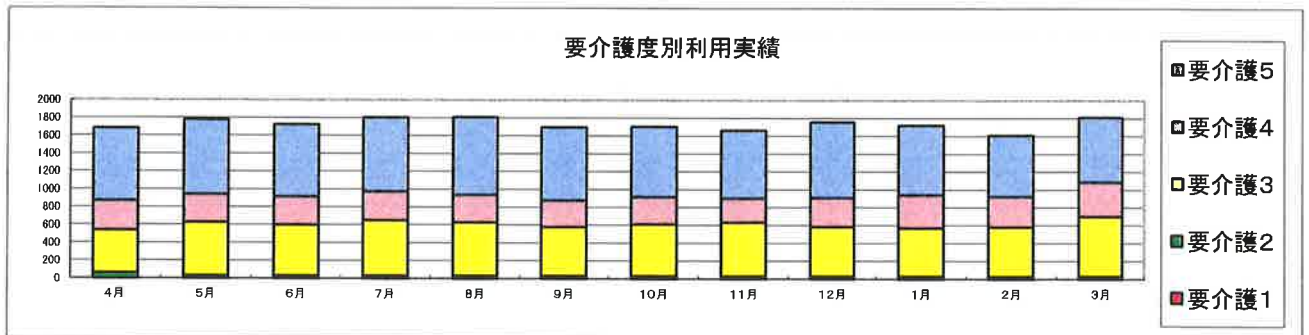
2 入所者の状況

〔1〕月別入退所者数

区分	平成6年 ～ 令和元年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和 2年 度計	累計	男	女
入所者数	445	1	2	1	2	0	1	2	1	2	0	5	1	18	463	126	337
退所者数	385	3	1	1	0	0	2	3	1	2	1	1	1	16	401	114	287
月末 在籍者数	/	58	59	59	61	61	60	59	59	59	58	62	62	/	/	/	/

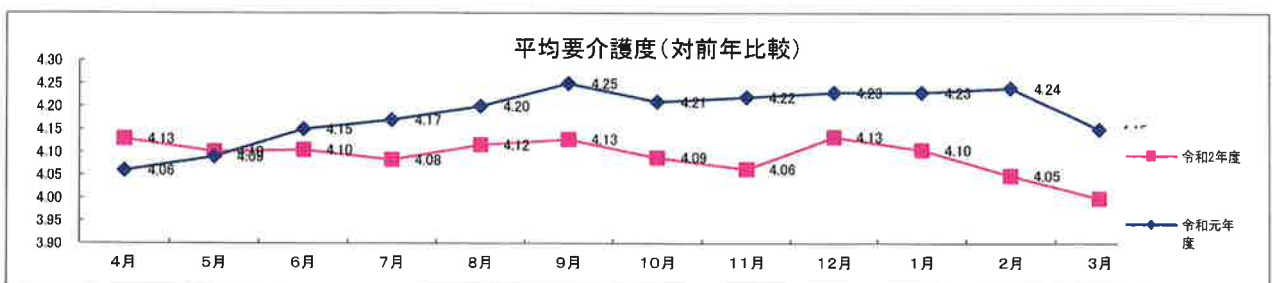
〔2〕要介護度別利用実績

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
令和2年度	要介護1	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		延	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要介護2	人	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
		延	60	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	395
	要介護3	人	19	21	21	21	21	22	22	21	19	19	23	24	253
		延	477	595	567	618	597	545	578	600	552	537	551	667	6884
	要介護4	人	11	11	11	11	11	11	11	9	12	13	13	13	137
		延	330	315	320	325	310	300	305	270	325	372	343	388	3903
	要介護5	人	29	27	27	28	28	28	28	29	28	26	26	25	329
		延	814	837	807	829	868	822	790	764	848	779	685	726	9569
	合計	人	61	60	60	61	61	62	62	60	60	59	63	63	732
		延	1681	1778	1724	1803	1806	1697	1704	1664	1756	1719	1607	1812	20751
	平均介護度		4.13	4.10	4.10	4.08	4.12	4.13	4.09	4.06	4.13	4.10	4.05	4.00	4.09



平均要介護度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年度	4.06	4.09	4.15	4.17	4.20	4.25	4.21	4.22	4.23	4.23	4.24	4.15	4.18
令和2年度	4.13	4.10	4.10	4.08	4.12	4.13	4.09	4.06	4.13	4.10	4.05	4.00	4.09



〔3〕入所期間別状況

(令和3年3月31日現在)

区分	6ヶ月未満	6ヶ月以上 ～1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上～ 10年未満	10年以上	合計
男	3	0	5	3	1	0	12
女	7	6	18	10	9	0	50
合計	10	6	23	13	10	0	62

平均入所期間	2年9ヶ月
--------	-------

〔4〕年齢別分布状況

(令和3年3月31日現在)

区分	65～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	合計
男	3	0	1	5	3	0	0	12
女	0	4	6	13	15	10	2	50
合計	3	4	7	18	18	10	2	62

平均年齢	男性 84 歳	女性 89 歳	平均 88 歳
------	---------	---------	---------

最少年齢	69 歳	最高年齢	103 歳
------	------	------	-------

〔5〕身元引受人状況

(令和3年3月31日現在)

続柄	配偶者	子	甥・姪	成年後見人	合計
人数	7	51	1	3	62

〔6〕退所事由別数調

区分	死亡		長期 入院	その他	合計
	施設	病院			
退所者数	5(3)	7	4	0	16

※()内は看取り介護の数

〔7〕入所前居住場所調

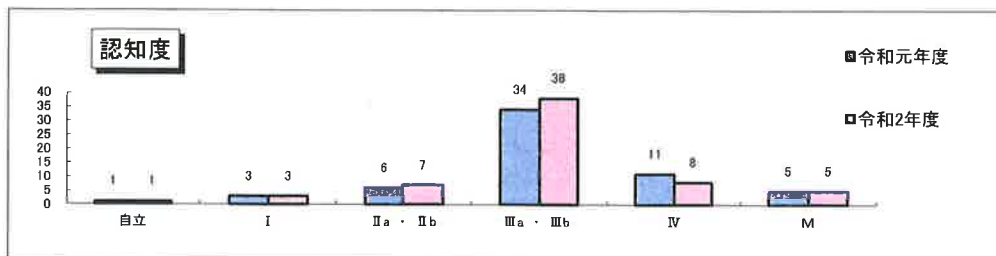
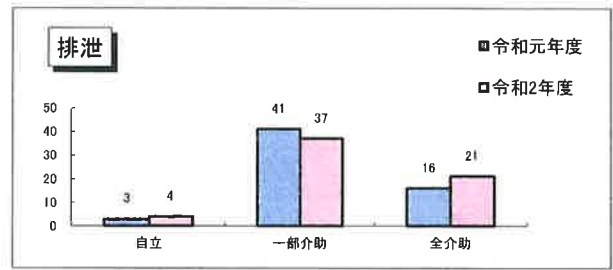
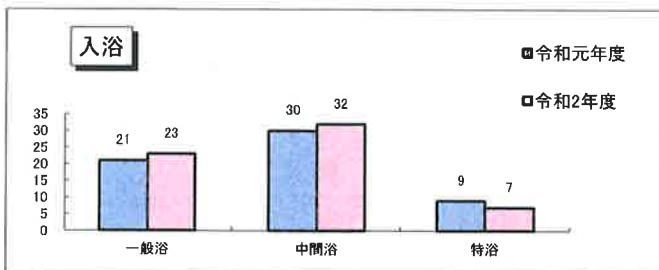
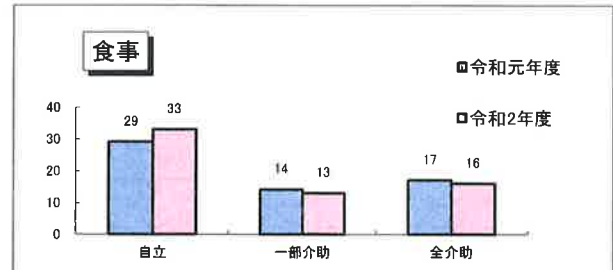
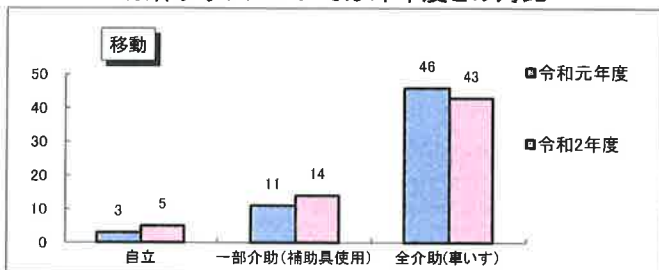
区分	在宅	療養 病院	老健 施設	介護医 療院施設	その他	合計
入所者数	13	2	3	0	0	18

〔8〕入所者の日常生活・認知度状況

(令和3年3月31日現在)

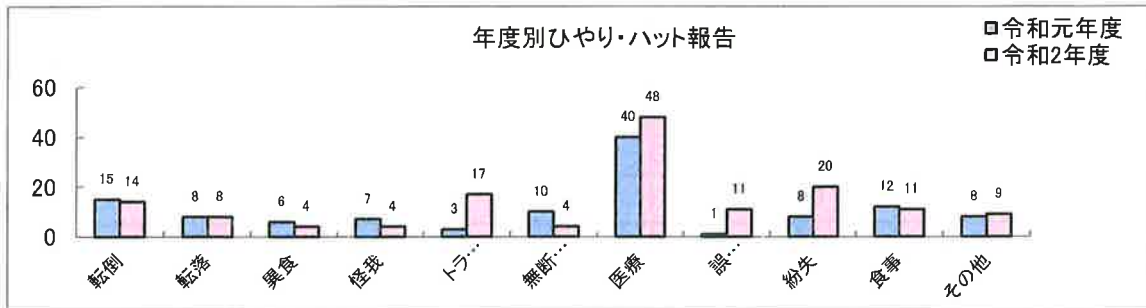
区分		令和元年度	1階	2階	3階	合計	割合
移動	自立	3	0	3	2	5	8%
	一部介助(補助具使用)	11	7	4	3	14	23%
	全介助(車いす)	46	12	18	13	43	69%
食事	自立	29	10	14	9	33	53%
	一部介助	14	5	5	3	13	21%
	全介助	17	4	6	6	16	26%
入浴	一般浴	21	7	9	7	23	37%
	中間浴	30	10	13	9	32	52%
	特浴	9	2	3	2	7	11%
排泄	自立	3	2	2	0	4	6%
	一部介助	41	13	12	12	37	60%
	全介助	16	4	11	6	21	34%
認知度	自立	1	0	1	0	1	2%
	I	3	0	3	0	3	5%
	Ⅱa・Ⅱb	6	2	4	1	7	11%
	Ⅲa・Ⅲb	34	14	12	12	38	61%
	Ⅳ	11	2	4	2	8	13%
	M	5	1	2	2	5	8%

※棒グラフについては昨年度との対比



[9]ひやり・ハット報告書作成状況

区分	令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	15	1	1	0	1	4	1	0	2	1	1	1	1	14
転落	8	2	0	3	0	0	1	0	0	0	2	0	0	8
異食	6	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	4
怪我	7	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	4
トラブル	3	0	0	0	1	0	4	2	3	2	2	2	1	17
無断外出	10	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	4
医療	40	7	3	5	2	5	3	2	6	4	5	3	3	48
誤嚥・誤飲	1	0	1	0	0	0	2	3	2	0	0	2	1	11
紛失	8	0	2	1	2	4	0	2	1	3	2	3	0	20
食事	12	0	0	1	0	0	0	2	3	0	0	3	2	11
その他	8	1	1	0	1	1	0	1	0	0	2	0	2	9
合計	118	11	10	12	8	16	11	12	19	11	14	15	11	150



[10] 事故報告(市への報告事故)状況

区分	事故発生日	原因	事故内容	性別	受診先	入院の有無
1	令和2年4月1日	転倒	左膝脛骨外顆骨折	女	洲本伊月病院	有
2	令和2年4月3日	転倒	左大腿骨転子部骨折	女	翠鳳第一病院	有
3	令和2年4月27日	転倒	腰椎圧迫骨折	女	翠鳳第一病院	無
4	令和2年8月5日	転倒	腫脹	女	淡路医療センター	無
5	令和2年10月11日	転倒	右大腿骨転子部骨折	男	淡路医療センター	有
6	令和3年1月20日	転倒	右大腿骨頸部骨折	女	淡路医療センター	有
7	令和3年2月21日	転倒	左大腿骨頸部骨折	女	淡路医療センター	有
8	令和3年3月5日	転落	右大腿骨転子部骨折	女	淡路医療センター	有
9	令和3年3月12日	転倒	第4腰椎圧迫骨折	男	平成病院	無
10	令和3年3月12日	転倒	左大腿骨頸部骨折	女	淡路医療センター	有
11	令和3年3月26日	転倒	右大腿骨頸部骨折	女	淡路医療センター	有
12	令和3年3月27日	転倒	右大腿骨転子部骨折	男	淡路医療センター	有

[11] 苦情・要望状況

苦情	8件
要望	11件
意見	21件

家族から	30件
利用者から	9件
事業所から	0件
その他	1件

3 総務係

(1) 収支差額の確保と施設整備資金の確保

- ① 施設整備更新及び施設内修繕については、令和2年からの3年間計画を作成した。
- ② 財務状況を毎月、職員会議で報告、各事業の収入確保について検討会を行った。

(2) 法人及び経営情報を公表

- ① 現況報告書等(現況報告書、計算書類)の情報を公表した。また、ホームページにおいて、前年財務諸表(緑風だよりにも掲載)と前年度事業報告書及び2年度事業計画書を公表した。

(3) 社会福祉法人として地域貢献活動を実施

- ① 地域サポート利用者や家族、居宅ケアマネ等との情報交換により地域住民のニーズ把握に努めた。
- ② 地域サポート施設の活動として13人を対象に支援を実施した。内訳として、見守り訪問、年延べ104件、外出支援(医療機関、買い物、金融機関への同行)、年延べ122件、安否確認(訪問、電話)、年延べ421件の支援をした。

(4) 施設整備を計画的に実施

- ① 当初計画した、ベッド15台(購入額410万円 助成金180万円)、電動介助リフト6台(購入額127.7万円 助成金63.8万円)を購入した。また、兵庫県新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業として、オートクレープ1台(購入額27.5万円)、ノートパソコン2台(購入額23.3万円)、顔認証温度検知器(25.9万円)、ソファ3台(50万円)、手洗い器設置(26.9万円)を購入した。
- ② 当初計画した、エレベーターロープ交換を実施した。しかし、コロナ感染症の影響により、緑風館内(床、壁クロス)に修繕は延期した。

(5) 人材の確保と育成

- ① 島内高校6校及び神戸の専門学校を訪問。また、ハローワークのミニ面接会や介護求人面接会に参加した。5名の面接はあったが採用には繋がらなかった。
- ② 介護福祉士取得を支援した。(受験費用、介護福祉士実務者研修・受験日の講習扱い) 職員の資質の向上を図るため下表のとおり外部研修会に参加した。

(うちオンライン研修参加数)

研修内容	特別養護老人ホーム緑風館	緑風デイサービスセンター	小規模みどりの家	居宅介護支援緑風館	緑風在宅介護支援センター	合計
医療連携					1	1
防災	3 (2)				1	4 (2)
食事・給食業務	8 (6)					0 (6)
行政・保険・法改正	5 (3)	2 (1)	1	1 (1)	1 (1)	10 (6)
総務・財務事務	1 (1)					1 (1)
ケアマネ				18 (5)	8 (2)	26 (7)
資格取得・スキルアップ ・人材育成	2 (1)					2 (1)
地域サポート・ケア	14 (3)				16 (1)	30 (4)
感染予防		3 (2)			1	4 (2)

その他	2 (2)	2			1	5 (2)
合計	35 (18)	7 (3)	1 (0)	19 (6)	29 (4)	91 (31)

4 栄養係

(1) 栄養ケア・マネジメント

① 低栄養予防・改善については、毎月のサービス担当者会議の他、体重や食事摂取量、採血データに大きな変化がみられた時は、都度関係職員と対策を考え栄養補助食品(ジュース、ゼリー)を提供した。提供後、栄養状態の変化について観察した。

② 疾病に応じた食事提供については、糖尿食・心臓食・腎臓食・肝臓食・膵臓食を提供した。

療養食

療養食内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
糖尿食	実人数	4	3	3	3	2	2	2	2	2	3	3	31
	延べ食数	245	279	270	279	186	139	186	180	186	186	238	2,638
心臓食	実人数	10	13	14	13	12	12	13	8	8	8	10	129
	延べ食数	860	949	1,172	1,160	1,041	934	873	720	707	666	672	10,668
腎臓食	実人数	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	5	67
	延べ食数	450	465	354	458	540	540	558	540	558	558	483	5,969
肝臓食	実人数	3	3	2	2	2	2	2	2	2	3	3	28
	延べ食数	270	199	180	186	186	164	101	180	186	186	180	2,297
膵臓食	実人数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	25
	延べ食数	180	186	180	186	116	175	186	180	186	186	168	2,115
合計	実人数	24	26	26	25	24	24	25	20	20	23	23	280
	延べ食数	2,005	2,078	2,156	2,269	2,069	1,952	1,904	1,800	1,823	1,782	1,741	23,687

③ 自然排便への取り組みについては、排便状況を観察、評価し、個人の体質に合わせて、オリゴ糖、ミルクオリゴ糖、ミルミル、ミルミルS、ソファール(ヨーグルト)、ファイバーを提供した。

④ 口腔機能及び嚥下機能にあわせた食事提供については、内科医師と歯科医師の指示のもと経口維持(I)(II)を計画し、実施した。

経口維持

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
対象者	I	19	18	17	17	17	17	15	16	17	15	15	199
	II	19	18	17	17	17	17	15	16	17	15	15	199

(2) 安全安心な食事の提供

① 厨房職員及び入室者の手洗いの徹底については、入館時と厨房入室時の手洗い・うがいを体調管理の確認も行った。

② 食品の賞味期限の確認と期限内の使用確認については、賞味期限が近づいた食品から消費し、都度補充した。

③ 厨房機器の修繕及び更新計画の策定については、故障機器は迅速に修繕し、経年劣化については点検を行った。

- ④ 各フロア配膳室の巡回と整理・整頓・清掃・清潔についてはチェックシートを用いて毎月の巡回を実施し、配膳室の環境を確認した。

(3) 食の楽しみ

- ① 季節を感じる食事の提供については、4月花見弁当、5月子供の日(デイサービスで柏餅)、7月七夕行事食、9月敬老の日行事食、11月秋の美食ランチ、デイサービス寿司パーティ、12月クリスマス行事食、1月おせち、2月節分行事食、3月ひな祭り行事食を実施した。
- ② 喫茶コーナーの定期開催については、各セクションで毎月喫茶コーナーを開催し、わらび餅やかき氷、ぜんざいや桜餅など季節感のあるおやつを提供した。

5 介護計画係

(1) 多職種連携による情報収集、分析

① 定期的なサービス担当者会議、ケアカンファレンスの開催

「令和2年度 職種別サービス担当者会議参加実績 (年間開催日数34回)」

職種	介護支援 専門員	看護職員	管理栄養士	介護係主任
出席回数	34回	30回	34回	34回

上表の通り、サービス担当者会議を定期開催することで利用者一人ひとりの課題を細かく検討し、専門性をもった視点で計画化することができた。

「ケアカンファレンス 本人及び身元引受人の参加実績」

区分	令和元年度	令和2年度	前年対比
開催回数	135回	116回	19回減
本人 参加回数	8回	3回	5回減
身元引受人 参加回数	131回	113回	18回減

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、島外在住のご家族には郵送でケアプランの説明をし同意を得たため、開催総数は減少した。

「ケアカンファレンス参加者の続柄別内訳」

区分	配偶者	子	子の配偶者	孫	兄弟姉妹	甥・姪	成年後見人	その他	本人	合計
参加延人数	11名	78名	40名	4名	0名	1名	3名	2名	3名	142名

- ② ケアプランの見直しや家族との相談支援を綿密に行うことで身元引受人との信頼関係を深めることができた。また、家族からの土日祝日の日程希望もあり柔軟にスケジュールを調整することができた(カンファレンスの日程変更21件)。
- ③ 医療、栄養係との包括的な一覧表作成では一年間を通じて毎月実施する予定であったが、介護人員不足のため介護業務が主になり実施できなかった。

(2) 継続的かつ根拠のある課題分析

① 「令和2年度 アセスメントツールの活用実績」

アセスメントツールの種類	気づきシート	センター方式 A-3	センター方式 A-3以外	包括自立支援プログラム
延利用者数	118名	130名	12名	118名

利用者個々の状態に合わせた多様な書式の活用により、その人らしさの追求や自立支援を行い、生活の質の向上に繋げることができた。

② 認知症ケア委員会と連携し、8ケースについて課題抽出をすることで、精神・行動支援のケアプランを提供することができた。また、排泄委員会との連携において、排泄ケアに対する代替ケアを立案することで排泄ケアに特化したケアプランを3ケース作成できた。

(3) ケアプラン実施に対する定期的な効果検証

① ケアプラン作成・変更の2週間後のモニタリングは43名について実施し、効果検証を行った。うち、定期更新以外の適時の変更については24名分のケアプラン変更を実施することができた。

② 毎月のモニタリングは担当職員が行い、介護支援専門員が確認している。また、モニタリング実践記録表についても担当職員が毎月記入して、介護支援専門員が確認をしている。

6 生活相談員

(1) 利用率目標値の達成

① 「長期入所、短期入所の利用率実績」

長期入所	短期入所	特養全体
94.70%	108.49%	96.70%

(2) 定期的な事業所訪問と情報交換

① 「関係機関への訪問件数」

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8件	10件	10件	13件	8件	8件	8件	8件	9件	9件	9件	8件	108件

「関係機関との情報交換」

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
15件	15件	15件	17件	14件	12件	13件	13件	13件	14件	12件	12件	165件

(3) 加算の取得

① 未取得である新たな加算情報の集約に向けて、他施設及びインターネット等での情報集約を実施。特に「褥瘡マネジメント加算」を取得している他施設に協力を依頼し、加算について情報を聞き取る。また、新型コロナウイルス感染症に伴う特例取扱いに対する加算取得に向けても同様、インターネット等活用し情報収集を行った。

② 新たな加算取得に向けて検討を行う。「褥瘡マネジメント加算」については、収入と労力が見合わないと判断し取得を断念。「再入所時栄養連携加算」についても取得には至っていない。新型コロナウイルス感染症に伴う特例取扱いに対する加算については8月から加算取得を開始し、8か月間で延98名の利用者に対し加算取得した。

(4) 住民及び他事業所への空床状況案内

① 空床状況表の更新について、短期入所の空きが少ない4月、1月、2月に関しては作成しなかったが、その他の月は更新作成を行った。

② 空床状況表の更新月には関係機関訪問時、全機関に配布した。

③ 空床状況表の更新月には緑風館ホームページにアップデートを実施した。

(5) 社会資源との結びつきに対する工夫

- ① 行政、各種関係機関等との連携や結びつきについては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、困難で充実できなかった。
- ② 実習生、ボランティアの受け入れについては新型コロナウイルス感染症の影響によりできなかった。
- ③ 施設内ホールの住民への開放を目指し推し進めてきたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止した。
- ④ 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、地域の催しの中止がほとんどとなり、利用者の参加はできなかった。

7 1階介護係

(1) 安心、安全への追求

- ① フロア会議にて居室環境の見直しを行い、ベッド柵や車いすの設置場所に関して話し合い、統一したケアを実施した。危険予知トレーニングを年2回開催することで、気づき力の向上に努めた。
- ② 「安心」に繋がるケアの「安心」の意味を意識し、職員間で統一できた。その中でも「健康」に重点をおき、レクリエーションの時間を活用して積極的に体操を実施した。
- ③ 玄関ホールからフロアの様子が見え、くつろげる空間ではなかったが、ロールカーテンで仕切りをする事でプライバシーと安全に配慮した。また、寒さ対策としての環境作りができた。
- ④ コロナウイルス症感染拡大防止のため2時間おきの換気、毎日の感染予防消毒の実施、排泄後等適時の手洗い、食事の手指消毒を徹底して実施した。

(2) レクリエーションの充実

- ① 小規模でのレクリエーション(体操・歌)の実施や手先が器用な利用者には、職員と一緒に作品(壁画)作りを行った。
- ② 定期的にフロアの壁に季節感あふれる飾りつけを利用者と一緒に作成した。
- ③ 「季節に応じたフロア行事」

4月	裏庭での花見	11月	秋のパン祭り (フレンチトースト・サンドイッチ作り)
7月	夏祭り	12月	しめ縄作り
8月	おやつ作り(あんみつ)	1月	書初め・初詣
9月	お月見会	2月	お茶会
10月	ミニ運動会		

(3) 情報の共有化

- ① ケアワーカー室のホワイトボードを活用して、閲覧が必要な書式を掲示し確認することで周知の徹底を図り、情報共有、報告・連絡・相談に繋げた。

8 2階介護係

(1) その人らしさの追求と自立支援

- ① フロア会議で、不適切ケアに関する意見交換やアンケートをとり、「この言葉かけはや

めよう」を掲げ実施した。また、職員面談時には不適切ケアに関する言動の意識付けや重要性を学ぶことができた。

- ② ミニ納涼祭等のレクリエーション時には、自己選択・決定ができるように支援した。また、個室側でもゆったりと過ごせる場所を作り、居場所を選択できるようにした。

③ 「季節にちなんだレクリエーション、壁紙作り」

5月	DVD鑑賞	11月	ぜんざい作り・一日遅れのハロウィン
6月	フルーツあんみつ作り	12月	鍋作り・出張クレープ屋さん
7月	ミニ納涼祭	1月	淡路島クイズ大会
8月	パンケーキ作り	2月	パンケーキ作り
9月	DVD鑑賞	3月	クレープ作り・ひな祭り会
10月	風船バレー・豊かな秋を楽しむ会		
壁紙作り	「梅雨」「ひまわり」「もみじ」「クリスマスツリー」「干支」「梅」「桜」		

(2) 個別ケアの充実化

- ① 認知症ケア委員を中心にセンター方式を活用することで、根拠に基づいた心身状態の把握と対応を行うことができた。
- ② 連絡帳とケアワーカー室内のホワイトボードの活用の他、書類毎のファイルを作成し、わかりやすくまとめることで、情報共有の徹底に繋がった。また、主任とリーダーによる会議を実施し、業務の見直しや字句への配慮、事業計画について意識共有を図った。

(3) 安全で安心できるフロア環境

- ① 新型コロナウイルス感染症対策のため、毎日感染予防消毒を実施。また、体調不良者への対応として個室を活用し、発熱等の際は感染予防マニュアルにそった対応を行った。
- ② 10月から加湿器を設置し、フロアの湿度や温度管理に努めた。また定期的に天窓を開ける対応を行い、フロアの換気に努めた。
- ③ 毎月、フロア会議内で事故やひやりハット報告等への対応策を見直し、事故等の再発防止に努めた。また危険予知トレーニングを実施することで、フロア全体の周知徹底をはかることで気づき力の向上に繋がった。
- ④ 11月と12月にソファの買い替えにより、フロア環境の見直しを改めて行い、利用者にとってゆったりと過ごせる場所を作ることができた。

(4) 居室担当制の強化

- ① 毎月、居室担当職員が責任をもって居室整理、整頓、清掃等を実施し、リーダー、主任によるダブル確認を行い徹底した。
- ② 各居室担当職員により、下表のような居室の環境整備を行った。結果、その人らしさに配慮された居室環境作りに繋げることができた。

季節の写真等を掲示	スタンドグラスシールでの環境作り
思い出の写真を掲示	家具の配置変更
レクリエーション時の写真を掲示	草花を居室に掲示

9 3階介護係

(1) 安全で安心して暮らせる環境作り

- ① フロアのソファ位置については、使用しやすく、安全に過ごせるよう、その都度変更した。食堂についても、利用者の関係性を踏まえ、食事席やテーブルを変更した。車いすでも食べるだけでなく、椅子に乗り換える事で、姿勢の安定になり、正しい姿勢での食事が提供できた。
- ② 新型コロナウイルス感染症の予防対策として、例年以上に手洗い・換気等に重点をおき、職員で情報共有と意識向上に努めた。また、発熱者等、体調不良者が出た際には、静養室を使用し、迅速に対応できた。
- ③ リスクマネジメントの強化について、毎月フロア会議内で、各種発見報告・ひやりハット報告について、対策を検討し、再発防止に努めた。

(2) 寄り添うケアの実現

- ① 利用者主体でのケアを常に念頭におき、ケアにあたった。利用者を把握するため、センター方式を2名の利用者に活用し、ケアの質の向上に努めた。課題として、センター方式の使用例が少なかったため、今後はもっと件数を増やすことで、より良いケアに繋げたい。
- ② 業務内容を変更する事で、午後からは利用者と一緒に掲示物を作成したりと時間の有効活用に努めた。
- ③ 季節に応じた貼り絵等を作成し、フロアに掲示した。また、おやつ作りや風船バレー等の企画をし、楽しんでもらった。

(3) 情報共有の徹底

- ① スムーズに職員への連絡が行えるよう、フロア会議の決定事項については、次の日には掲示できるよう対策を講じた。また、きちんと閲覧したか確認するため、確認印を押すことで周知徹底ができた。

10 看護係

(1) 嘱託医との連携による健康管理

- ① 利用者個々の既往歴については、入所時や病変時等に生活相談員及び介護支援専門員、嘱託医と連携を図ることで状況把握に繋がっている。体調不良時には早急に嘱託医に指示を仰ぎ、適切な対応が実施できた。
- ② 定期血液検査や健康診断、各種予防接種のサポートは確実に実施できた。

血液検査	63名	健康診断	60名
インフルエンザ予防接種	54名	肺炎球菌予防	0名

(2) 感染症等の予防

- ① マスク、手指消毒液等の備蓄は、残数をチェックし追加発注を行い、不足解消に努めた。
- ② 感染予防マニュアルの確認と周知を徹底した上で、手洗い、うがい、手指消毒の啓発を徹底して行った。手順教育等は施設内会議の開催が中止となり、随時の教育とポスター等の掲示による喚起にとどまった。

(3) 床ずれゼロの推進

- ① 各種発見等の活用により、早期発見に努め、治療を行うことで、早期に治癒している。
- ② 医療、各委員会との連携による床ずれの早期発見により、早期治療に繋がっている。

区分	完治	継続	退所	発生合計
床ずれ発生者数	4名	1名	3名	8名

(4) 協力歯科医との連携による口腔ケアの充実

- ① 協力歯科医による定期的な歯科健診、口腔内のモニタリングを行い個々に合わせた口腔ケアを行うことにより、口腔内の健康管理に努めることができた。また、施設全体に対しての助言や質問に対する返答も随時頂けている。
- ② 毎月、食と健康を考える会を開催し、看護係や栄養係と適時連携を図っている。口腔ケアやスムーズな経口摂取に対してモニタリング、検討を行うことで歯科医に相談しやすい体制が整っている。

(5) 看取りケアの充実

- ① 嘱託医、各専門職との連携を図ることで、3名の利用者の看取りサポートができた。
- ② その人らしい最期を迎えられるよう、本人、家族の意向を尊重した、看取りサポートができた。嘱託医からの説明については、その都度本人や家族に希望等を確認し、必要に応じて対応している。
- ③ エンゼルケアについては、計画当初は研修会に参加する予定であったが、新型コロナウイルス感染症のため研修会自体が中止となることが多く、今年度については参加できなかった。今後、研修会があれば参加することでケアの質の向上に努めたい。

(6) 機能訓練計画の策定と実施

- ① 個別機能訓練計画書は、3ヶ月毎に評価と見直しを実施した。利用者の心身の変化があれば、都度計画書の見直しを行っている。

機能訓練計画書更新件数	1階フロア	2階フロア	3階フロア
	73件	98件	70件

- ② 担当者、介護支援専門員、生活相談員と更新の度に相談し検討を行うことで、利用者個々に合った計画の策定、実施を行っている。

11 リスクマネジメント委員会

(1) 危険予測、事故事例の情報集約と統計分析

- ① リスクマネジメントについて、情報集約力の強化を目指し、事業所毎の全体集計をとることで、ひやりハットの各報告件数について増加し効果があった。また、様々なセクションの事例を共有することで、あらゆる視点から認識することができた。

事故に至らない軽微なものは、報告書を集約し統計をとることで事故予防に努めた。

特にひやりハット報告は前年比36件増、気づき報告は89件増と職員の意識が向上した。

各種発見	569件	ひやりハット	154件	気づき	304件
------	------	--------	------	-----	------

- ② 各部署ごとの会議を毎月1回行い、事故報告書等の分析と個別ケア検討を実施することで再発防止に努めた。また、リスクマネジメント委員会も毎月行うことで、法人内での情報共有に繋げることができた。事故件数(市への報告事故)は12件であった。

③ 気づき力の強化を目指し、リスクマネジメントをテーマに令和3年2月に、施設内研修を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、研修としては中止となった。その代替として、特養においては各フロアごとにKYT(危険予知トレーニング)シートを活用することで、グループ討議による演習ができ、資質向上に繋がった。今後も継続していく。

(2) 安全性の向上

① 福祉機器の定期安全確認として、車いす等の移動機器について各セクションで引き続き定期的に確認することにより安全性向上に繋がっている。また、ベッドの更新(15台)、移乗用リフトを新規で6台購入したことで利用者及び職員にも安全な移乗に繋がった。

12 身体拘束ゼロ委員会

(1) 身体拘束ゼロの推進

① 法人として身体拘束ゼロは継続して実施しており、事故リスクの軽減に努めている。

「リスクマネジメント委員会」においても、積極的な課題解決を実施している。各委員が各セクションに内容を持ち帰り、職員全体に周知を図っている。更に各部署で不適切ケア防止策を話し合うことで尊厳に対する配慮、高齢者虐待防止を図っている。

② 「不適切ケア」の根絶に向けて法人全体として意識の統一を図った。各セクションの会議内で、研修会を実施することで理解を深め、日常のケアを振り返ることができた。

10月には「不適切ケア防止」をテーマに認知症ケア委員会が中心となり施設内研修を開催し、職員の意識づけの強化を図った。また、委員会内で「不適切ケア禁止事項3か条」として具体的な禁止重点項目を挙げ、全職員に周知徹底した。

③ 委員会は年4回開催。

④ 施設内研修は年2回開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、10月の開催のみとなる。

13 感染症対策委員会

(1) 感染症予防対策の強化(インフルエンザ、新型ウイルス、ノロウイルス等の対策)

① 施設内研修に関して、年2回開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け今年度は開催できなかったが、新型コロナウイルス感染症に関する情報や資料、厚生労働省よりの「介護現場における感染対策にのり引き」や「感染対策マニュアル」を各部署に配布し、情報の共有を図った。

② 職員や来館業者に関しては手洗いや手指消毒、マスク着用、検温の励行を例年以上に徹底した。家族等に関しては新型コロナウイルス感染症の影響により来館制限を行ったため、来館数は著しく減少したが、各種相談やカンファレンス、リモート面会の来館に対して職員同様、感染予防に努めた。

③ 淡路島圏域等における感染症流行時の対策を強化するため、インターネットの速報確認や行政、他事業所等の協力を得ながら早期の情報収集に努めた。

④ 必要物品(マスク、手指消毒液、加湿器等)の適切な備蓄と活用に関しては、一時期納入が出来ない物品があり、納入に困難が生じた。行政からの補助等や民間の寄付等もあった。

備蓄に関しては、感染時のリスクも想定し在庫数を確保しておく必要がある。

⑤ 利用者の健康管理については嘱託医、看護係が中心となり多職種協働により実施。変化があれば、迅速に各専門職に相談する体制を整えている。職員についても各セクションにおいて相談経路を明確にし、マニュアルに沿って健康管理に努めている。新型コロナウイルス感染症対策として、職員は毎出勤時に検温を実施し体調管理をしている。また、職員の島外への外出状況を把握するために「職員外出届出書」の提出を求めている。

⑥ 湿度管理の徹底として、特にインフルエンザの流行が懸念される時期から、昨年度導入した広範囲での効果が期待できる加湿器を各セクションで活用。特に1階フロアは寒くなりがちのため、電気ヒーターを買い揃えた上にフロア・玄関ホール間にロールカーテンを設置することで暖気を保ちやすくなり、利用者も健康で快適に過ごせるようになった。

(2) 感染症発生時の対策強化

① 高熱や風邪症状等により利用者の感染症が疑われる場合は、適時個室や静養室への居室変更を行うことで感染症蔓延防止に努めた。また、風邪等が複数人発生した場合には対象者専用の多床室を準備し隔離対応も行った。

② 感染予防マニュアルは各セクションに設置している。嘔吐等の対応に関してはマニュアルに沿った支援が行えている。

③ 感染症が発生した場合は、関係機関への報告が迅速にできるよう体制を整えている。

14 栄養管理委員会

(1) 健康保持増進への対応

① 栄養管理委員会、給食会議を年6回ずつ定期開催し、情報の共有を行った。

② 各セクションにご意見帳を置き、記入してもらった。対応について委託業者と検討し、栄養管理委員会と給食会議で確認した。

(2) 食を楽しむ計画作成

① 緑風納涼祭、ふれあい食事会、もちつき会は新型コロナウイルスの影響により中止となったが、11月に利用者の希望を取り入れた「秋の美食ランチ」を開催できた。

喫茶コーナーはボランティア不在であったが、毎月各フロアで実施した。

(3) 食事基準表の見直し

① 利用者の必要栄養量を見直し、令和3年4月からの栄養基準表と食品構成表を作成した。

15 看取りケア委員会

(1) 看取りケアの充実

① 委員会活動は年4回開催。多職種共働のもと連携が行えるように看取りケアマニュアルを見直し更新することができた。嘱託医にも適時情報提供を行うことで終末期への体制を更に整えることができた。

② 偲ぶ会では、看取りケアのあり方と家族との絆について今一度考える良い機会となった。毎回、意見交換を行うことで今後のより良い看取りケアに繋げてられている。今年度は3名について偲ぶ会を開催することができた。

③ 施設内研修は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、書式による回覧により情報共有、意見集約を行うことで資質向上に努めた。今後もリモート研修への参加等積極的に進めていきたい。

(2) 快適に過ごせるための環境整備

① 静養室へ、パーテーション・ソファベッド・アロマを導入することが出来た。

最期を迎えられた居所	居室	静養室	個室
	1名	2名	0名

16 食と健康を考える会

(1) 安全且つ快適な食事環境への整備

① 毎月、身体状況表の見直しを行い、個々にあったテーブルや椅子を検討し使用できた。

② 食器や自助具の変更件数

1階フロア	10件	2階フロア	18件	3階フロア	12件
-------	-----	-------	-----	-------	-----

利用者の口の大きさに適したスプーンを導入する事により、安全面に配慮できた。

(2) 協力歯科医師との連携による口腔ケアの実施

① 毎月、奥田・有馬医師による健診を実施。健診件数・治療件数は下記の通り。

1階フロア	2階フロア	3階フロア	治療
22件	29件	19件	19件

② 個々に合った口腔ケアの見直しや疑問点等を歯科医師の助言を基に実施・解決した。

(3) 食事ケア・口腔ケアにおける質の向上

① 外部研修(リモート)に1回参加し、委員会内で情報共有し、各フロア職員にも周知した。

② 10月に食事関連に関する活用方法の見直しを実施し、各階で統一できるよう変更した。

(4) その人らしさの追求と尊厳への配慮

① 毎月、委員会にて食事用エプロンの見直しを行った。個々の検討を行うことで必要、不必要の確認と整理ができた。

② 食事については、利用者個々に合った食事形態や自助具に変更し、食べやすい環境を提供した。口腔ケアについては、不織布を使用し、口腔内の清拭を行ったり、口腔体操の実施により嚥下機能低下の防止に努めた。また、自身で歯磨きができる利用者に対し、洗面所へ案内して口腔ケアを勧めることで健康維持や自立支援に努めた。

17 排泄委員会

(1) 快適な排泄の実現

① 利用者に応じた排泄用具の検討、導入(定期尿量測定の実施)を年2回実施することで、定期的な見直しにより23名の利用者の排泄用具を変更した。紙パンツから下着(コットンパンツ等)へ8名の利用者に対して見直しを行い快適性に配慮できた。

② おむつ交換やトイレ案内の際、エコバックやカゴの使用を止めて、プライバシーを守る取り組みを行った。ユニットケアポーターを各階に計4台を購入、衛生面や職員の介護負担の軽減にも繋がった。

(2) スムーズな排便への取り組み

- ① スムーズな排便への取り組みとして、健康補助食品やサプリメント、乳製品の情報収集、検討、試行を実施してきた。今年度は43件の事例検討をした結果、15名の利用者に効果が表れた。

スムーズな排便への取り組み実施件数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1階	2	0	3	0	2	1	2	1	1	0	0	0	12
2階	0	3	1	2	0	0	1	1	2	0	1	0	11
3階	2	1	1	2	2	5	2	1	2	0	2	0	20

(3) 自立支援を踏まえた排泄ケアの実施

- ① 安全且つ統一された排泄介助の代替ケアを検討し、実施する事で年間6名の利用者についてトイレが可能となった。
- ② 個人別排泄留意表の作成、更新を毎月行いながら、排泄用具や排泄ケア内容等の整合性を確認できた。

(4) 排泄ケアの知識向上

- ① 新人職員向けの研修については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、施設内研修としては実施できなかった。具体的な指導や助言については直接ケアの中で実際的な教育は実践している。排泄マニュアルを新しく更新し、各階に周知を図った。
- ② 関連性のある他の委員会との合同研修会等は実施できなかった。
- ③ 業者を交えた研修会を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、実施には至らなかった。外部研修にも参加できなかったため、委員会内でおむつ交換についての研修用資料を作成し、各階で研修会を実施した。

(5) コストの削減

- ① 各フロアの排泄委員が中心となり、排泄用具が適切に使用されているかを介助時に確認している。また排泄表の更新を毎週実施している。排泄用具の見直しや試行観察も適時、実施している。
- ② 毎月、排泄委員長と業者が連携を図り在庫管理を実施し、使用量の把握をしている。業者との報告、連絡、相談はメールを通じて行っているため迅速な対応が可能となっている。パッドやパンツ等、委員と業者で使用量の推移を情報共有することでコスト面を意識できている。

18 入浴委員会

(1) 安心、安全への配慮

- ① 6月と12月に大掃除を実施し、普段洗えていない場所の清掃を行った。高圧洗浄機を使用することにより、スムーズな実施に繋がった。排水溝やタイルのカビ清掃も行えた。
- ② 入浴に関するひやりハットや気づき報告(電灯の消し忘れや補充不足、掃除不足)に対して、委員会内で今後の対策を検討し、各セクションへの報告を行った。
- ③ 安全に入浴できるように、個浴に手すりを設置した。古くなった入浴用カバンの変更を行

った。中間浴槽チェアのブレーキやシャワー取っ手、一般浴槽の詰まり等の修理を行った。介護用リフトを導入・設置したが、まだ効率的な使用までには至っていない。

(2) 入浴ケアの統一化

① 曜日別入浴表と貴重品所持者一覧表についての変更をした。また、新規利用者や退所者、状態変化時には、速やかに定期更新書類の変更を行った。特別ケア対応者一覧表は見落とすことがあったため中止し、曜日別入浴表に直接記載するようになった。

(3) 「お風呂が楽しみ」への追求

- ① 5月と10月に入浴に関するアンケートを実施した。好みの湯温や環境面についての検討を行い、それに伴う曜日別入浴表の更新を行った。
- ② 5月から3月まで毎月、季節湯の実施を行った。開始前にはポスターを掲示し、実施中は感想と課題点を記入してもらうことで、利用者にも喜んでもらった。
- ③ 入浴アンケートに基づいた音楽や室温への配慮を行った。また季節湯の実施日以外は入浴剤を使用し、快適な入浴に繋げるよう努めた。爪ブラシを購入し、入浴介助時に洗浄する等の活用を行った。

(4) 知識向上への取り組み

- ① 新型コロナウイルス感染症の影響により、外部研修会や展示会への参加はできなかった。
- ② 委員会内で7月に足浴についての勉強会を行うことで、足浴に関する知識向上に繋げることができた。

19 認知症ケア委員会

(1) 認知症に対する理解力の向上

- ① 委員会内で研修会を開催し、4大認知症(アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、脳血管性認知症)や認知症に対するお薬や精神薬等について、改めて深く掘り下げ、理解することができた。この内容について、各セクションにも発信し理解が深まった。
- ② BPSD(認知症の行動・心理症状)について改めて理解するために委員会内で研修会を開催した。これにより、認知症に対するケアの在り方を再認識することができた。
- ③ 各種セラピーの効果について研修会を開くことで理解を深め、各セクションで実施した。

セクション	セラピー種別	対象人数	効果
1階フロア	園芸療法	3名	○
2階フロア	園芸療法	3名	○(うち1名)
	アロマセラピー	1名	×
3階フロア	ドールセラピー	1名	○
デイサービス	アニマルセラピー	2名	○
みどりの家	音楽、作業、運動、農作業療法	1名	○

(2) センター方式アセスメントの活用

① マニュアルに沿ったシート活用の推進

1階フロア	4名	2階フロア	6名	3階フロア	2名
-------	----	-------	----	-------	----

センター方式アセスメントシート使用により、利用者の生活リズムや精神面の浮き沈みの原因研究、排泄や水分飲用量の分析に効果が得られた。

(3) 認知症ケアに対する振り返り

- ① 言葉かけ・不適切ケアのアンケートを実施。アンケートを元に身体拘束予防や不適切な言葉かけについて統計をとることができ、より良いケアへの推進に繋がった。
- ② 施設内研修において「不適切ケアについて」をテーマにグループディスカッションを実施。意見交換をする中で、普段のケアの振り返りとケアの見直しが図られた。また、高齢者虐待予防に向け、不適切ケアの再認識とともに意識の統一にも繋がった。

(4) ふるさとツアーの実施

- ① 新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度は実施できなかった。

20 環境を考える会

(1) ゆとりとやすらぎの提供

① 安心、安全、快適な環境作り

〈1階〉 9ヶ所

《改善前》



《改善後》



《改善後の状況》

ロールカーテンを設置することにより、冬の寒さ対策、プライバシーへの配慮ができた。

〈2階〉 7ヶ所

《改善前》



《改善後》



《改善後の状況》

利用者がフロアで過ごす場所を、自己選択できるようになった。また無駄な空間がなくなった。

〈3階〉 4ヶ所

《改善前》



《改善後》



《改善後の状況》

食堂が広くなり、狭かった食事席が広がった。机や椅子に足がつかずにくくなり、転倒の予防に繋がった。

〈デイ〉 7ヶ所

《改善前》



《改善後》



《改善後の状況》

ラミネートした用紙を使用して連日告知することにより、利用者のソーシャルディスタンスに対する意識が高まった。

〈事務所〉 4ヶ所

《改善前》



《改善後》



《改善後の状況》

以前の環境と比較すれば、周囲の視線を気にすることなく話し合いができるようになった。プライバシーの確保ができた。

〈みどりの家〉 合計5ヶ所

《改善前》



《改善後》



《改善後の状況》

新しいソファを購入して設置することにより、フロア全体に統一感ができた。利用者からも清潔感があり、好評である。

② キャプションシート(環境評価シート)を活用し、他のセクションの評価を行い、各セクションの良いと感じられるところ、悪いと感じられるところ、不思議だと感じられるところを各委員の違った視点からとらえることができた。結果、環境の改善に繋げることができた。

(2) 環境アプローチの質の向上

① 他施設の見学や外部研修は、新型コロナウイルス感染症の影響により、行うことができなかったが、次年度以降の見学の候補地を委員会内で話し合い決定することができた。また「環境」「キャプション評価法」についての勉強会を実施し、環境アプローチの質の向上を図った。

21 ポジトラ委員会(ポジショニング・トランスファー委員会)

(1) 利用者の安楽な姿勢や活動しやすい姿勢の保持

- ① ポジショニングやシーティングについて外部研修資料やガイドブックを参考にしながら、ディスカッションすることで理解を深められた。また、これらを踏まえて実践する事ことで、安楽な姿勢保持に繋がった。実際のケアを見直す機会にもなった。
- ② ポジショニングシートについては9件のケースについて活用することで、拘縮予防や床ずれの予防に繋げるためのケアを確立することができた。
- ③ シーティングシートについては、15件のケースについて活用。車いすや椅子での姿勢の安定に繋がった。

(2) 床ずれの早期発見と予防、治療

- ① 床ずれができる原因と予防策、医療との連携について研修会を開催。除圧方法や発赤判定ツール活用による皮膚異常の早期把握に繋がるよう知識が向上した。
- ② 皮膚が赤くなり床ずれの恐れがあった際には発赤判定ツール等、35件使用できた。
- ③ クッション等を活用してのポジショニングを9件実施。試行用クッションがあることで、本人に合った福祉用具の選定に役立った。居室にはポジショニング用写真を掲示し、職員間でケアを統一した。

(3) 利用者や職員への負担軽減

- ① 当初「ノーリフティングケア」をテーマに施設内研修で学ぶ予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となり、具体的な移乗方法習得までに至らなかった。
- ② 移乗用リフトを6台導入して、各フロアや浴室に配置することで、利用者はもちろん職員の身体的負担の軽減や安全性向上に繋がった。移乗に要する時間はかかるようになったが、少ない人数で安全に対応できるようになった。

22 広報委員会

(1) 地域に向けた定期的な広報活動

- ① 緑風会の財務状況、機関紙緑風だより、施設の情報を随時更新した。
- ② フェイスブック・ブログに年間行事や施設内研修、日々の生活等の情報発信を年73件投稿した。YouTubeのアカウントを作成。それによりFacebookに動画が投稿できるようになった。
- ③ 緑風だよりを年3回(8月、12月、3月)発行し、利用者・家族・他事業所・地域の方に配布した。

(2) パンフレットのデザイン変更

- ① デザイン業者4社に見積もりを依頼した。

(3) 施設内における写真の展示

第1回緑風会フォトコンテストを開催。26作品の応募があり職員投票と館長・親睦会の審査で各賞を決定した。



金賞

「大きくなれ」



銀賞

「Mrs. 笑顔…と云えば」



銀賞

「新しい服を着て」



館長賞

「大正生まれ 気持ちは18歳」



広報委員賞

「ピース」

23 衛生委員会

(1) 職場環境における安全性の確保

- ① 4S活動については各セクションごとに年間目標を立て実施した。
- ② 労働災害については「作業環境」「作業内容」「疾患等罹患リスク」について委員会で検討し、対応策を実施することで予防に繋げることができた。今年度の労働災害は1件あり、委員会内で事故内容について検討した。

③ 施設内の床材等、劣化や破損している箇所については、昨年の補修箇所を参考に、補修等の必要性がある箇所を最優先に実施した。

④ 感染予防対策については4S活動と連動し、職場内を清潔にすることで、感染予防の防止に努めた。

(2) 職員に対する心身の健康管理

① 年2回健康診断を実施し、有所見者には2次検査受診を勧めることで、職員の健康維持に努めた。

② 年1回、全職員(82名)にストレスチェックを行い、今年度は15名の高ストレス対象者という結果であり高ストレス者対象者については、いつでも産業医に助言してもらえる体制をとって対応した。メンタルケアについても委員会内で話し合い、各セクション内で回覧できるよう工夫した。

③ 腰痛予防について、年1回、腰部保護ベルトの使用状況調査を行い、腰痛者を把握し産業医の意見をもと改善に努めた。腰部保護ベルト使用率は前年度42.50%に比べ、今年度は3.28%増加した。腰部保護ベルト使用者は下記参照。

	常用	頻繁	痛い時	ほとんど未使用	夜勤時のみ	未使用	使用率
腰部保護ベルト 使用者数 (総数83名)	13名	2名	15名	6名	2名	45名	45.78%

24 地域交流委員会

(1) 地域住民との交流

① 各地域老人会や各種団体の行事への参加(地域の祭り、梅まつり等)

区分	各種団体名	内容	職員参加人数
7/19	愛宕神社	清掃・準備協力	11名
7/19	全島一斉清掃	近隣清掃	11名
11/14	全島一斉清掃	近隣清掃	10名
12/6	ぼうさいカフェ緑	参加	2名
3/21	愛宕神社	清掃・神事参加	4名

上表の通り、合計38名の職員が携わることで、不藤・広田南地区をはじめ、緑地区の住民との積極的な交流を図れた。ただし、例年に比べると新型コロナウイルス感染症の影響のため、交流する機会は少なかった。

② 出張講座、介護者教室の実施

区分	各種団体名	内容	職員参加人数
12/11	中山レディース会	介護保険について	2名

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、今年度は1件にとどまった。

(2) 地域支援

① 兵庫県地域サポート施設事業活動としては8件であった。独居高齢者の見守りの他にも介護保険では補えないサービスを行った。

② 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、今年度は地域に向けて施設スペースを開放できなかった。

(3) 社会福祉法人としての公益性の遂行

① 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、地域や各法人の行事縮小や中止に伴い、生活困窮者等への相談窓口としての相談ブースを設置できなかった。

25 入所検討委員会

(1) 緊急性、必要性の高い人へのスムーズな入所検討

① 委員会は毎月開催し、緊急性や必要性を鑑みて検討する。

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所待機者	64名	71名	74名	72名	72名	77名	79名	77名	78名	81名	84名	62名
新規申込者	6名	8名	8名	1名	2名	6名	5名	3名	2名	7名	8名	2名
申込取消者	4名	1名	1名	3名	2名	1名	4名	5名	1名	2名	3名	19名

② 1月から2月にかけて入所待機者全員に連絡を行い、改めて意向・状況確認を行った。

③ 7月に南あわじ市と洲本市にメールで情報調査票を提出した。

Ⅲ 短期入所生活介護事業

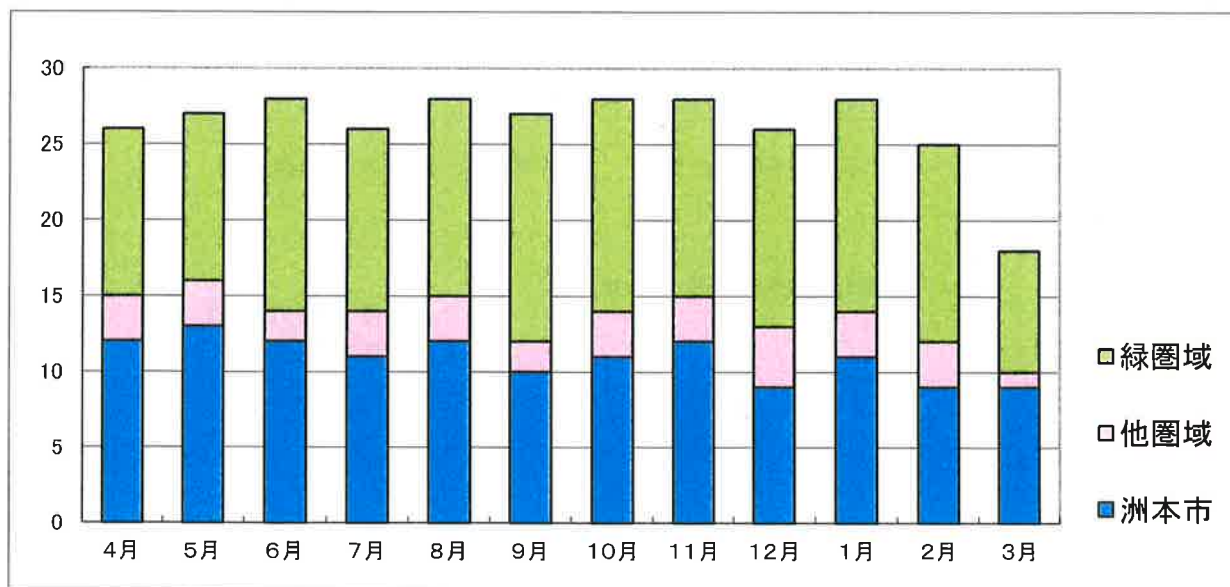
1 施設 の 概 要

- 〔1〕 名 称 特別養護老人ホーム 緑風館
- 〔2〕 所 在 地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- 〔3〕 開 設 平成 6 年 6 月 20 日
- 〔4〕 設 置 運 営 社会福祉法人 緑風会
- 〔5〕 定 員 10 名

2 市町別利用状況

区分		令和2年度												合 計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
南あわじ市	緑圏域	実人数	11	11	14	12	13	15	14	13	13	14	13	8	151
		延人数	178	199	222	208	228	223	194	186	184	174	192	124	2312
	他圏域	実人数	3	3	2	3	3	2	3	3	4	3	3	1	33
		延人数	45	31	50	34	20	29	33	32	36	34	20	20	384
洲本市	実人数	12	13	12	11	12	10	11	12	9	11	9	9	131	
	延人数	122	100	87	95	104	95	110	128	94	155	80	92	1262	
実人数合計		26	27	28	26	28	27	28	28	26	28	25	18	315	
延人数合計		345	330	359	337	352	347	337	346	314	363	292	236	3958	

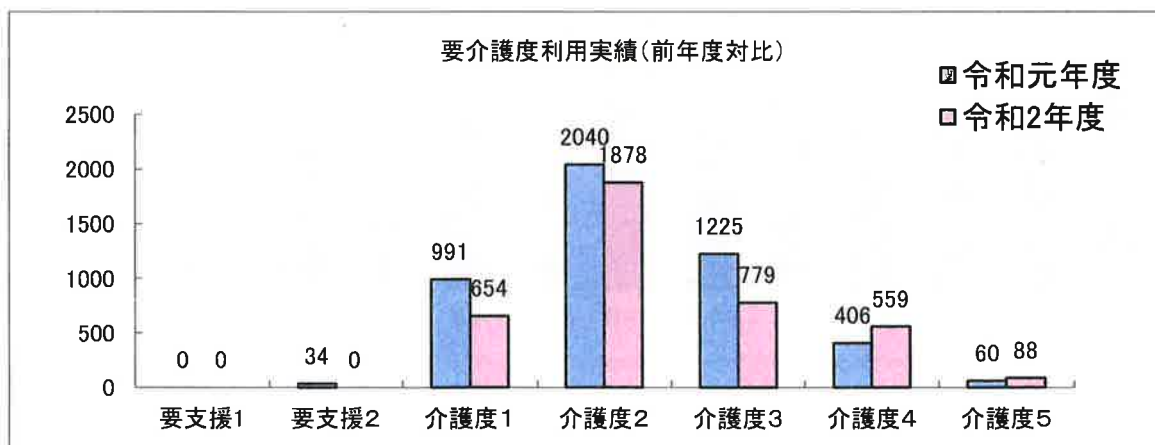
(実人数)



3 要介護度別利用実績

区分		元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	平均	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
要支援2	人	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	平均	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
要介護1	人	93	4	4	5	4	6	4	4	4	5	5	5	4	54
	延	991	54	50	69	64	51	46	47	44	61	59	56	53	654
	平均	10.7	13.5	12.5	13.8	16.0	8.5	11.5	11.8	11.0	12.2	11.8	11.2	13.3	12.1
要介護2	人	122	13	14	14	14	12	13	11	11	10	11	9	10	142
	延	2040	173	178	184	190	188	194	153	145	124	122	107	120	1878
	平均	16.7	13.3	12.7	13.1	13.6	15.7	14.9	13.9	13.2	12.4	11.1	11.9	12.0	13.2
要介護3	人	90	7	7	5	5	5	5	7	7	5	7	6	1	67
	延	1225	106	90	63	60	61	58	53	63	39	110	69	7	779
	平均	13.6	15.1	12.9	12.6	12.0	12.2	11.6	7.6	9.0	7.8	15.7	11.5	7.0	11.6
要介護4	人	31	1	1	2	1	4	4	5	6	6	4	3	2	39
	延	406	9	9	13	10	49	47	83	94	90	70	40	45	559
	平均	13.1	9.0	9.0	6.5	10.0	12.3	11.8	16.6	15.7	15.0	17.5	13.3	22.5	14.3
要介護5	人	9	1	1	2	2	1	1	1	0	0	1	2	1	13
	延	60	3	3	30	13	3	2	1	0	0	2	20	11	88
	平均	6.7	3.0	3.0	15.0	6.5	3.0	2.0	1.0	0.0	0.0	2.0	10.0	11.0	6.8
合計	人	349	26	27	28	26	28	27	28	28	26	28	25	18	315
	延	4756	345	330	359	337	352	347	337	346	314	363	292	236	3958
	平均	13.7	13.3	12.2	12.8	13.0	12.6	12.9	12.0	12.4	12.1	13.0	11.7	13.1	12.6

※ 人(実人員) 延(延べ利用日数) 平均(ひとり当り利用日数)



IV 通所介護事業

1 施設の概要

〔1〕名 称	緑風デイサービスセンター
〔2〕所在地	兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
〔3〕開 設	平成6年7月1日
〔4〕設置運営	社会福祉法人 緑風会
〔5〕利用定員	35名

2 利用者状況

① 地区別利用者数(登録者数)

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
南あわじ市	広田広田	5	5	5	5	3	4	4	4	4	4	4	5
	広田中筋	9	9	9	8	8	8	8	9	9	8	9	9
	山 添	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1
	中条中筋	5	5	6	5	5	5	5	5	5	5	5	4
	中条徳原	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	中条広田	2	2	2	2	2	1	1	1	2	2	2	2
	倭文庄田	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	倭文長田	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	倭文土井	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	倭文安住寺	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	志知地区	2	1	1	3	3	2	2	2	2	2	2	2
	市地区	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	3	2
	榎列地区	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1
	八木地区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
洲本市	前平・木戸・池内	5	5	5	7	6	6	6	6	6	7	6	6
	宇 原	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	大 野・金屋	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4
	鮎 屋	6	6	5	6	6	6	5	6	5	4	3	4
	千 草	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	納	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	物部地区	2	2	2	2	3	3	4	3	3	3	3	3
	上内膳・加茂・宇山	5	3	4	4	4	5	5	5	5	3	4	5
	鳥 飼	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	62	58	58	61	60	59	59	62	61	58	59	60	

② 年齢別利用者状況(令和3年3月31日現在)

区分	60歳代	70～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	合 計
支援	0	2	3	2	4	11
介護	1	1	11	18	18	49
計	1	3	14	20	22	60

3 生活相談員

(1) 在宅生活の継続支援

① 送迎時や電話連絡にて、在宅での状況を確認し、家族と情報共有を行った。

② ケアマネジャーからの依頼にて、担当者会議に参加し、情報共有を行った。

コロナ禍の為、書類での情報提供も多かった。利用者の状況の変化があった際には、担当者会議を依頼し、利用事業所との情報共有を行い支援した。

③ 利用時やケアプラン等で、ニーズの把握を行い支援を行った。

④ 満足度調査は未実施となったが、利用者や家族からは、感謝の声を頂いている。

(2) 利用率90%以上の達成と継続維持

令和2年度 実人数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	22	21	22	23	21	22	22	22	21	20	20	23	259
新規	要支援	0	0	0	0	0	2	1	1	0	1	0	5
	要介護	2	0	0	4	1	1	0	1	1	1	0	12

令和2年度 実利用者数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
要支援1	実	9	8	8	7	6	7	5	7	7	7	8	5	7.0
	延	43	30	32	36	27	37	27	29	33	35	36	27	32.7
要支援2	実	7	7	7	7	7	5	7	6	6	6	5	6	6.3
	延	40	38	34	27	44	16	22	23	21	36	35	21	29.8
要介護1	実	24	22	24	24	24	25	24	24	24	25	25	26	24.3
	延	259	251	278	260	233	242	239	235	235	232	228	279	247.6
要介護2	実	13	13	13	15	15	14	16	16	15	15	15	16	14.7
	延	172	166	176	212	205	189	183	193	182	165	169	207	184.9
要介護3	実	3	3	2	3	3	2	2	4	4	4	3	3	3.0
	延	35	32	19	39	34	32	33	51	61	27	40	56	38.3
要介護4	実	3	3	3	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3.5
	延	35	33	34	40	35	36	37	34	33	29	29	33	34.0
要介護5	実	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0.7
	延	0	0	0	0	4	5	4	4	4	4	4	5	2.8
総合計	実	59	56	57	60	60	58	59	62	61	61	60	60	59.4
	延	584	550	573	614	582	557	545	569	569	528	541	628	684.0

開所日数	259	1日平均	26.4
------	-----	------	------

達成率74%

- ① 担当ケアマネジャーへは、毎月訪問し、利用実績と担当利用者の状況を写真入りで報告した。
- ② 入院・利用休止者には、電話連絡やご自宅への訪問、ケアマネジャーに状況を確認した。
- ③ 個々に応じて半日利用や入浴のみ、短時間利用を調整した。(12名)
- ④ 新規利用者には、体験利用を勧め、利用を促進。結果11名のうち9名が利用に繋がった。
- ⑤ キャンセルの連絡時には、内容を確認し、訪問や再度連絡を行った。
- ⑥ コロナ禍のため、見学会は中止。都度、パンフレット等で案内を行った。
- ⑦ 新型コロナウイルス感染症の為、利用を自粛されていた利用者が3名いた。

(3) 専門職としての資質向上

- ① 月1回、デイ会議を開催し、全職員で利用者の支援や業務について意思統一を図った。
- ② 施設内研修の開催は少なかったが、書類等での情報収集・共有を行った。
- ③ 新型コロナウイルス等の感染症予防・対策の研修の実施、情報収集を行った。
- ④ 個別シートにて、個々の年間目標を設定し、達成に向けての面談を行った。

4 介護係

(1) 自主支援・個別対応

- ① 利用者自身に役割を担っていただくことで、在宅生活が継続できるよう意識づけをし、心身の機能維持に繋がった。(食事の配膳、おしぼり配り、おやつ準備、おしぼり巻、コーヒーの準備等)利用者ご自身も自主的に参加している。



食器洗い



食事の準備

- ② 利用者や家族と情報交換を行い、クラブ活動への参加、役割を担って頂くことで心身の機能維持や家族の負担軽減を支援した。
- ③ 利用者同士が助け合う姿も見られ、機能維持や認知症予防支援に繋げることができた。



ドライヤーかけ



掃除・片付け

- ④ 利用者自身の持つ力を活かしながら、ゆっくりと入浴できるように支援した。
感染予防対策として、浴室に入る利用者の人数を制限して対応した。
その日の状態に応じ一般浴と中間浴の利用を検討し、安心して入浴できる体制をとった。
入浴時間は午前と午後に分け、入浴剤やゆず湯など、リラックスできる環境を継続した。
- ⑤ 行事や季節に合った食事を提供し、利用者に季節を感じてもらうことができた。
- ⑥ 継続して、食事前には、嚥下体操(パタカラ体操)を実施。食後には、うがいを実施して頂

き、嚥下機能の維持、口腔ケアに努めた。

- ⑦ 利用者の状況変化に応じて、表示や利用者自らが行動できるように環境整備に努めた。
- ⑧ 感染予防対策として、座席数を制限し対応した。安全に過ごせるように、環境に配慮した。継続して、パテーションやカーテンなどを設置し、プライバシーへの配慮を行った。



(2) 衛生管理・感染予防

- ① 職員は、出勤・退勤時、作業前に手洗い・消毒、出勤時の検温を行った。毎月の職員目標等にも感染予防の目標を掲げ、職員の意識づけを継続して行った。

利用者にも、来館時、食事前等の手洗い・消毒の実施を声かけし実施した。

- ② 温度計を壁に設置し、室温・湿度を調整した。

(3) 社会参加への支援

- ① デイサービスを利用し役割を担っていただくことで、利用者自身の意欲向上、できることの発見と活気ある生活に繋げることができた。

利用者から、「何かできることがあれば、言って下さい。」との声が多数、伺えた。

- ② 利用時には、職員や他の利用者との交流を図り、笑顔が見られた。

久しぶりに会った利用者同士もあり、喜ばれる場面も見られた。

- ③ 活動の中で、雑巾を作ったが、コロナ禍の為、地域交流が行えず、寄贈できなかった。

- ④ 外出行事は、人との触れ合いを回避して実施。ドライブを通して、地域へ出向く事ができた。

5 機能訓練指導員

(1) 個別・集団機能訓練

個別機能訓練加算人数

「要支援訓練加算」 生活機能向上グループ加算：100単位 運動器機能向上加算：225単位/月

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活機能向上	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
運動器機能向上	12	11	11	10	11	11	11	12	11	11	11	9	131

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
個別機能Ⅰ	実	43	41	42	46	47	48	46	47	46	46	47	545
	延	501	481	507	551	537	530	510	531	523	488	484	6241
個別機能Ⅱ	実	16	15	15	18	18	17	16	18	17	15	16	197
	延	149	152	163	186	186	185	173	185	173	149	158	2042

- ① 職員が関わる中で、できることを見つけ、取り組むことで、意識の向上・自立支援へ繋がった。
- ② 利用者・家族のニーズを初回訪問時や訪問にて把握し、計画に取り入れ実施した。
- ③ 個々の状態、生活環境を把握し、座る・立つ・歩く等の身体機能が維持・向上できるよう訓練の実施をした。



起立訓練



階段昇降

④ ニーズに応じて複数の機能訓練を組み合わせ心身機能の維持・向上を支援した。



自転車こぎ



踏み台昇降

⑤ 調理や洗濯、掃除の活動、役割づくりを通して社会参加・心身機能の向上を支援した。



洗濯物干し

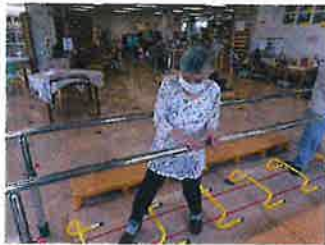


裁縫



調理

⑥ 5人程度の小集団や個別での訓練を実施。



平行棒運動



屋外散歩



歩行訓練

⑦ 集団レクリエーションや創作活動を通して、上肢・下肢運動、記憶・集中力運動を行った。



ボール投げ



計算



書道

6 看護係

(1)安全、安心な環境への取り組み

- ① 来館時、昼食時、おやつ前には、手洗い・消毒を励行し、感染予防に努めた。
- ② 食後には、うがいを励行し、口腔ケアを行った。
- ③ フロアに温度・湿度計を設置し、湿度が低い時には、加湿器を使用し、乾燥予防に務めた。
- ④ デイサービス終了後には、机や椅子、使用した物品の消毒を実施した。
- ⑤ 週1回、床を次亜塩素酸ナトリウム溶液で清掃した。
- ⑥ コロナウイルスへの感染予防も含めて、体調不良時の対応フローチャートを作成し、家族へ周知した。また、送迎時には、体温測定・手指消毒の実施、玄関フロアで体温測定を実施した。

7 クラブ活動

クラブ活動は、利用者が選択できるよう、3メニュー用意し活動参加している。
今年度は、感染予防対策を重視し、3密対策に注意して実施した



ぬいぐるみ落とし



バスケットボール



玉蹴り



工作



塗り絵



園芸

8 年間行事

新型コロナウイルス感染症の影響により、外出行事の実施はドライブのみとなった。
季節の行事は、利用者同士が密にならないように工夫して、実施した。



夏祭り



ドライブ



寿司パーティー



運動会



クリスマスウィーク



新年会

緑文化展への出品作品



裏庭で育てた野菜を調理して、食べました。



野菜の収穫



ポテトサラダ



ぬか漬

V 小規模多機能型居宅介護事業

1 施設の概要

- [1] 名 称 みどりの家
- [2] 所在地 兵庫県南あわじ市広田広田424-1
- [3] 開設 平成21年4月1日
- [4] 設置運営 社会福祉法人 緑風会
- [5] 利用定員 登録 25名 通い 15名 泊まり 9名
- [6] 土地・建物 敷地面積 247.93㎡(借地)
建物構造 鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺2階建
建物延面積 372.48㎡

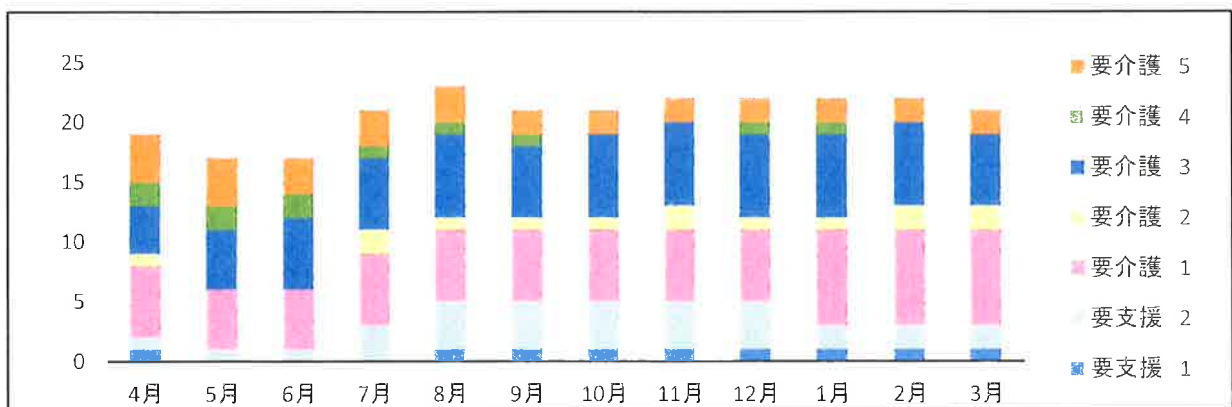
2 管理者

(1) 目標登録件数の確保

① 登録者22名(介護17名 支援5名)の確保

【 登録者数 】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要支援 1	1	2	2	1	0	0	0	1	1	1	1	1	0.9
要支援 2	3	3	3	3	3	4	5	5	5	4	4	4	3.8
合計	4	5	5	4	3	4	5	6	6	5	5	5	4.8
要介護 1	10	10	10	11	11	10	11	10	10	9	8	8	9.8
要介護 2	3	3	3	2	2	1	1	1	2	3	2	2	2.1
要介護 3	5	3	2	1	1	2	2	2	2	2	3	3	2.3
要介護 4	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.8
要介護 5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0
合計	20	18	18	17	17	16	17	16	17	17	16	16	17.1
総合計	24	23	23	21	20	20	22	22	23	22	21	21	21.8



【 サービス実績 】

サービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
通所 (1日あたり)	445 14.8	409 13.2	420 14.0	409 13.2	418 13.5	422 14.1	454 14.6	397 13.2	424 13.7	380 12.3	365 12.6	384 12.4	411 13.5
宿泊 (1日あたり)	179 6.0	165 5.3	195 6.5	220 7.1	264 8.5	270 9.0	248 8.0	240 8.0	245 7.9	217 7.0	201 6.9	223 7.2	222 7.3
訪問 (1日あたり)	139 4.6	122 3.9	74 2.5	75 2.4	50 1.6	33 1.1	52 1.7	66 2.2	80 2.6	84 2.7	81 2.8	75 2.4	77.6 2.5

② 事業所活動の情報発信

新型コロナウイルス感染症の影響により、地域や各種団体、事業所への情報発信は思うように出来なかったが、地域ケア会議(7月～11月)、中山レディース会(12月11日)に出席し、事業内容、活動の紹介が出来た。

(2) 施設サービスの充実

- ① 11月に職員1名がレクリエーションの外部研修に参加出来た。
- ② 満足度調査を6月に実施した。配布総数23件で回答数19件、回収率82%となり貴重なご意見を業務改善・介護サービス向上に繋げることができた。10月には集計結果を家族に報告した。
- ③ コロナ禍で、年間6回の運営推進会議のうち、2回は書面報告にて実施した。写真を使用してわかりやすく活動報告した。
- ④ 年間行事で予定している外食行事は実施できなかったが、レクリエーションでのドライブで外出支援した。
- ⑤ 地域ケア会議は、新型コロナウイルスの影響で会議が中止になることが多く、5回の出席のみになった。
- ⑥ 新型コロナウイルスの影響で、小中合同避難訓練が中止。地域の防災訓練は参加することができなかった。
- ⑦ パンの移動販売『ウインズ・きらら』が7月、10月に来所した。感染症対策として施設玄関にて販売。地域の方が10名程来所されパンを購入した。
地域ボランティアは、感染拡大防止対策の為、受け入れることができなかった。

3 介護支援専門員

(1) 24時間、365日その人らしい暮らしへの支援

- ① 食事、入浴のみの通いサービス利用(出来るだけ自宅に居たい方)や、利用者に合わせた送迎時間(時間に追われず用意したい方)に対応することでライフスタイルに合った支援をした。
- ② 毎日夕食後までの通い利用や、毎日宿泊のみ利用で日中は自宅で過ごすなど、住み慣れた自宅での生活を続けられるよう支援した。コロナ禍での緊急事態宣言時は、通い利用を訪問利用に変更して在宅生活を支援した方が1名。また、要支援者や介護度の低い方でも毎日利用など必要な支援を支給限度額を超える心配なく支援した。
- ③ ご家族の急用時の宿泊や、独居利用者の体調不良による急遽の宿泊への支援が出来た。体調不良時には、通いサービスから訪問、宿泊サービスへの変更や訪問回数を増やすなどサービス調整し、受診が必要な方は病院への送迎を行った。
- ④ 入院時には、入院に伴う介護情報提供書を迅速に医療機関に提供(8件)ができた。
- ⑤ 新規利用者や状態変化した利用者とのカンファレンスを実施した。

4 看護係

(1) 感染症の発生・まん延予防

- ① 新型コロナ感染症予防対策を作成し職員に周知徹底した。

【3密対策】【感染消毒】【必要物品の確保】を実施。また、2時間毎に室内換気を行った。環境

整備としては、空気清浄機を購入、業者によるカーペットクリーニング、3台加湿器を設置した。

- ② 手洗いについては、職員・利用者共に徹底して行っている。また、消毒についても車の乗降時、福祉用具、床等あらゆる場所を行っている。

感染予防消毒の実施場所・時間の見直しを行い、毎日消毒実施し感染予防に努めた。

- ③ 事業所内研修は未実施となった。

(2) 体調管理の支援

- ① 新規利用時に既往歴の確認。内服薬は、利用者個々の服用一覧表と薬の効能表を作成した。
 ② 医療機関受診時には、看護師が介護情報提供書を作成し、82件の情報提供を行うことでスムーズな受診に繋げることが出来た。
 ③ 介護情報提供書を作成することにより、本人・ご家族が伝えきれない情報を提供することができた。

5 委員会活動

(1) 食事委員会

- ① 夏期はトマトやきゅうり等、冬季は小松菜やカブラを栽培した。収穫した野菜はメニューに取り入れた。利用者よりは、「新鮮で美味しい」と高評価であった。
 ② 衛生管理計画の見直しを実施。衛生管理チェックシートを新しく作成し、原材料の受入から管理方法の適正化を行い衛生管理に努めた。
 ③ 嗜好調査のアンケートは実施できなかった。

(2) 介護委員会

- ① 各種発見、ひやりハット、事故報告は以下のとおり

【各種発見】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒				1	2	3	1	2		1	2	1	13
転落			1			1				3	1	1	7
あざ	1	1	1	1									4
皮めくれ					1								1
怪我						1	1			1		2	5
無断外出			1										1
合計	1	1	3	2	3	5	2	2	0	5	3	4	31

【ひやりハット】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転落					2				1		1		4
紛失	1												1
無断外出		1											1
医療				1						1	1		3
その他				1									1
合計	1	1	0	2	2	0	0	0	1	1	2	0	10

【事故報告書】

	事故発生日	原因	事故内容	性別	受診先	入院 有無
1	令和2年6月27日	転落	恥骨骨折	女	翠鳳第一病院	無
2	令和3年1月27日	転落	剥離	女	翠鳳第一病院	無

- ② 外部・内部研修に参加することが出来なかった。
- ③ 利用者がレクリエーションの作業を行いやすいよう環境整備(物品・レク素材に札を付けた)を行なった。

宿泊者は、生活しやすいようにベッドやタンスを自立支援に配慮した環境に整えた。

(3) レクリエーション委員会

- ① 利用者個人に応じた作業でタンポポや藤の花といった季節の花々、バスマットや小物入れ、ステンドグラス等の作品を作り上げ施設に飾った。
- ② ITを使用したクイズやゲーム、皆で作り上げる工作(大きな塗り絵や鯉のぼり等)でレクリエーションを楽しんだ。
- ③ 誕生日会や年間行事、日常生活など通い利用者には、画像をプリントアウトしてご家族に見てもらった。宿泊者の家族には、SNSを利用して画像や動画を送って活動内容を伝えた。

6 年間行事

月度	行事内容
4月	お花見(中止)
5月	広田小中運動会見学(広田小中運動会が中止)
6月	外出会(中止)
7月	七夕祭り(7/7・9名)
8月	夏祭り(8/14・14名)
9月	敬老会(9/21・14名)
10月	運動会(10/12・12名)
	外出会(中止)
11月	市文化展参加(中止)ドライブ(11/18~11/27・13名)
12月	クリスマス会(12/24・12名)
	もちつき会(餅づくりに変更)
1月	新年会(1/15・11名)
2月	豆まき会(2/2・10名)
3月	ひな祭り会(3/3・12名)

みどりの家 行事紹介



7月
七夕祭り



7月
夏野菜作り



8月
夏祭り



9月
敬老会



9月
わたがし作り



10月
運動会



10月
お好み焼き作り



12月
クリスマス会



12月
おせち作り



1月
書き初め



2月
豆まき会



3月
ひな祭り会

VI 居宅介護支援事業

1 施設の概要

- 〔1〕 名 称 社会福祉法人 緑風会 緑風館
- 〔2〕 所在地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- 〔3〕 開 設 平成11年10月1日
- 〔4〕 設置運営 社会福祉法人 緑風会
- 〔5〕 併設施設 特別養護老人ホーム 緑風館

2 介護支援専門員

(1) ケアプラン作成件数

区 分		令和 元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	
予 防 プ ラ ン	要支 援1	洲本	64	4	4	4	5	5	4	3	4	3	3	3	45	3.8	
		南あわじ	404	36	34	33	34	36	36	35	35	33	34	34	34	414	34.5
	要支 援2	洲本	70	7	6	7	7	7	7	7	7	6	7	7	6	81	6.8
		南あわじ	279	23	23	23	25	25	24	25	24	24	25	25	26	292	24.3
	合 計		817	70	67	67	71	73	71	70	70	66	69	69	69	832	69.3
介 護 プ ラ ン	要介護1	433	32	36	37	34	32	35	35	34	36	34	33	35	413	34.4	
	要介護2	258	25	24	24	27	25	25	24	23	23	21	21	23	285	23.8	
	要介護3	168	12	12	10	13	14	14	13	13	14	14	15	11	155	12.9	
	要介護4	71	7	6	6	7	9	8	8	10	8	7	5	6	87	7.3	
	要介護5	21	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	4	27	2.3	
	合 計	951	78	80	79	83	82	84	82	82	83	78	77	79	967	80.6	

① 要介護者は月平均80.6となり目標の80件以上となった。

要支援者は月平均69.3となり目標の70件に満たなかった。

② 南あわじ市地域包括支援センター、翠鳳第一病院、平成病院、伊月病院、新淡路病院へ訪問し、広報と情報交換を行った。

③ 以下のように医療機関や公民館にパンフレットを配布し周知した。

広田地区	広田公民館、広田調剤薬局、ヘアサロンヤスイ、ウエルシア広田店、伊達精肉店、クリーニング新洗蔵、はりまや、ハーフタイム(喫茶店)、かわだ歯科
倭文地区	倭文公民館、倭文郵便局
その他	バベ医院、高橋内科医院、奥田歯科、新世薬局、大野公民館

(2) 住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らせるための支援

① 更新・状態変化があった対象者は全員アセスメントを実施した。

② 月平均149件のケアプラン作成のうち、介護保険外サービスを合わせたプランは38件であった。
介護保険外サービスの内訳は、南あわじ市の配食とおむつ支給、また民間の宅配弁当、移送サービス等がある。また、介護保険では補えない部分のサービスを提案したり、障害福祉サービスや小規模多機能施設利用を本人、家族に提案し、本人らしい生活ができる支援に結びつけた。

③ 年1回事業所のパンフレットの整理と更新とタブレット端末への情報入力を行った。

④ 月平均149件のケアプラン作成の内、かかりつけ医へのケアプラン提示は125件であった。

加算状況については、以下の通りである。

区 分		令和 元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防 プラン	初回	22	4	1	0	3	4	2	1	2	2	4	0	1	24
	小規模連携	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護 プラン	初回	42	2	1	1	4	5	2	4	2	3	1	4	5	34
	医療連携Ⅰ	16	2	2	1	3	2	1	6	2	3	3	1	0	26
	医療連携Ⅱ	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小規模連携	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	特定事業所Ⅲ	731	78	77	78	83	82	83	81	81	83	78	77	79	960
合 計		817	86	81	80	93	93	88	92	87	91	86	82	85	1044

⑤ 入院時の医療機関との連携は、介護のケアプラン作成月平均80件の内、26件であった。

⑥ 毎月、利用事業所へ提供票を持って行っている。また、書面にて情報収集を行った。

(3)緊急時の体制の整備

① ケアプランをかかりつけ医に提出した件数、149件中125件であった。利用者の生活状況を医師とケアマネが共有し、体調が急変した時に連携する体制を整えた。

② ①と同様に緊急時は担当がいなくても、他の職員で対応する体制ができた。

③ 継続中の利用者の基本情報シートは16件の更新を行った。

(4)介護保険制度の周知と理解、事業所の広報

① 法人職員に対して、介護保険の周知と居宅介護支援事業所の広報を行った。

② 中山サロン地区で近隣住民に対して、介護保険の周知と居宅介護支援事業所の広報を行った。

③ ②のように地域の集まりで、介護者教室を行った。

(5)利用者、家族に満足していただける事業所作り

① 事業所から困難ケースの依頼が1件あり、受け入れた。

② 週1回の連絡会を通じて、各担当利用者の状況を把握した。また、夜間や休日など担当ケアマネが不在時でも担当利用者一覧表を用いて事務職員や宿直職員から担当ケアマネへ連絡をスムーズに行えた。困難ケース時は2人体制で利用者宅へ訪問して状況を確認し、支援を工夫した。

③ 苦情相談件数はなかったが、迅速に対応するための2人体制を構築した。

④ コロナ禍のため実施できなかったが、来年度への準備は行った。

(6)介護支援専門員としての質の向上

① 年1回(3月)に自己評価、他評価を行い自己研鑽に努めた。

② 南あわじ市ケアマネ会には毎月出席し、情報収集と研修を行った。また、洲本市ケアマネ会には8回の研修に参加し、情報収集を行った。

③ 南あわじ市介護予防のための地域個別会議に2回、洲本市自立支援型地域個別会議に2回出席した。合同研修会はコロナ禍のためできず、事業所内で事例検討会2回行った。緑地区地域ケア会議にも2回参加し、利用者、家族が満足できる支援について多面的に検討することができた。

VII 在宅介護支援センター

1 施設の概要

[1] 名	称	緑風在宅介護支援センター
[2] 所	在 地	兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
[3] 開	設	平成6年6月27日
[4] 設	置 運 営	社会福祉法人 緑風会
[5] 併	設 施 設	特別養護老人ホーム 緑風館

2 活動実績

区 分	令和 元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	
活動 日数	開所日数	257	21	23	23	23	21	20	22	21	21	20	19	18	252 日
	訪問回数	82	4	5	5	7	6	12	7	7	10	24	14	9	110 回
	会 議	45	1	1	3	4	3	5	3	3	3	1	0	1	28 件
	家 族 会	6	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	3 件
	出前指導	4	0	0	0	0	2	0	0	1	2	1	0	0	6 件
	新規 出前指導	13	0	0	0	2	0	1	2	3	0	1	1	0	10 件

※訪問回数は、相談依頼への対応と、配食サービス、紙オムツ補助支給サービスのアセスメント調査。

(コロナ禍のため、訪問となっているが電話対応した件数も含まれる)

※新規出前指導は初回のみ掲載、2回目以降は出前指導への掲載。

3 会議の内訳

区 分	令和 元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
地域包括介護連絡会	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	11
その他の会議	13	0	0	2	3	2	4	2	2	2	0	0	0	17
合 計	23	1	1	3	4	3	5	3	3	3	1	0	1	28

※ その他の会議は 緑地区地域ケア会議や民生児童委員会

4 いきいき百歳体操・認知症サポーター養成講座の内訳

区 分	令和 元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
いきいき百歳 体操	10	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
認知症サポーター 養成講座	18	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
合 計	28	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	3

5 相談内容別実績

区 分	令和 元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
在宅生活について	14	0	0	1	0	2	6	3	1	0	1	1	0	15
情報提供	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
相談実人数	14	0	0	1	1	2	6	3	1	0	1	1	1	17

6 調査訪問内容別実績

区 分	令和 元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
オムツ調査	45	2	4	2	1	1	6	1	2	5	11	11	4	50
配食調査	14	1	0	2	3	1	0	1	1	1	10	0	1	21
継続見守り	23	1	1	1	3	4	4	4	4	4	3	3	3	35
合 計	82	4	5	5	7	6	10	6	7	10	24	14	8	106

7 令和2年度 事業計画に対する取り組みと結果

(1) 相談窓口体制の整備

- ① オムツや配食サービスのアセスメント調査時には、在宅介護支援センターのパンフレットを用いて、業務内容の説明を行った。
- ② 年3回の在宅介護支援センター新聞の発行と、新聞の配布を訪問先、いきいき百歳体操会場、認知症サポーター養成講座受講者、民生委員、広田と倭文の交流センターへ配布し周知した。
- ③ 地域包括支援センターや民生委員、警察や介護保険サービス事業所と連携して、地域の高齢者に対して、迅速で柔軟な支援を行った。
- ④ サロンへの参加はなかった。いきいき百歳体操には1回訪問して、在宅介護支援センターの内容について説明を行った。

(2) 認知症でも安心して生活できる地域づくり

- ① コロナ禍のため、1回開催したのみであった。
- ② 認知症サポーター養成講座開催時には、認知症カフェ、家族会のパンフレットを配布、認知症の方やその家族への支援体制があることを周知した。

(3) 地域の支援体制の整備、課題解決への対応

- ① 月1回の緑地区地域ケア会議の運営、司会を行った。
- ② 緑地区地域ケア会議で、地域課題、買い物、通院などの移動手段の課題がでた。
- ③ 地域包括や中核病院職員、民生委員との顔合わせた地域ケア会議でより、具体的な支援体制を確認し、迅速な支援に結びつけることができた。

(4) 地域包括支援センターとの連携

- ① 地域包括支援センターからの依頼により、配食サービスのアセスメント調査を行い、高齢者の生活状況を確認し、地域包括との連携を図った。
- ② 地域包括支援センターからの依頼により、紙おむつ支給のアセスメント調査を行い、高齢者の生活状況を確認し、地域包括との連携を図った。
- ③ 見守り件数は減少している。コロナ禍の見守り支援を行った際、新規2名が見守り訪問に繋がった。

